



役所の中では市長しか分からない状況でした。それを月・水・金曜日の週3回、朝の打ち合わせ会として、理事会を開き、理事以上の幹部と事務局が入り、決裁はすべて担当課長、または担当職員がその場で説明をして決裁を受けるということに変更しました。

◇精鋭職員の集団

私は行財政改革というのは、ただ財源を削ればよいというものではないと考えています。やはり、チームで和をもって仕事をする集団。それも精鋭の集団でなくてはなりません。事務的な改革だけすればよいというわけではなく、仕事をするにはまず、自分の身の回りの掃除をすること、その前に人と会ったらいさつをすること、これを徹底してきました。

それまでは、市役所の中で職員の皆さんは朝会つてもあいさつをしませんでした。あぜんとしました。日々の業務においても、職員間のチエツク、そして分からないことは自分たちで調べ、それでも分からないことはちゃんと聞く。そういう癖が徐々に付いてきました。

今は私が細かく指導しなくても各職員がやるようになりました。そのことによって生み出された財源で、子育て支援などを実施し、保育園を造ってきました。

◇若者が増えるまち

今の若い世代は共働きが当たり前の世代になっていきます。私は戦後の団塊世代の一番後で、ちょうど満60歳を迎えましたが、女性は家庭を守り、男性は外で働くということが主流の価値観でした。ところが、現在は女性も男性と同じように働き、そして結婚をし、子どもが生まれれば育てていかなければならない。そのようなライフスタイルの大きな変化に対して、私は対応してきましたつもりです。

その結果、牛久市はひたち野うしくの開発もありましたが、人口が増加してきました。特に若い世代の人たちが増えていきます。現在、常磐線沿線で人口が増えているのは牛久市だけです。12月28日現在、住民基本台帳、いわゆる日本の国籍を持っている人の数が8万0003人となり、外国人登録の方々が1600人弱です。人口構成を見ると、牛久は30歳代が2番、または3番目に多くなっています、4番目に初めて56歳から59歳までの方になっています。

これに加えて、現在は0歳児から4歳児が増えてきていて、ようやく人口減少の歯止めがかかりそうです。牛久市内においては、今年成人式を迎える方は810人。新生児の赤ちゃんも800人を超えるようになりました。牛久というまちのこれからの発展の二つの兆しだと認識しています。

◇税収増への取り組み

財政的には税収減ではありませんが、去年12月議会で株ホギメディカルさんに、市がオーターモードで請け負った工場用地12ヘクタールを引き渡しました。土地の買収・開発行為・工事が全部終わり、4億3000万円円の利益が出ています。もうけるためにやっているのではなく、企業誘致のためにやっているのですが、市役所のやっていることはいつも赤字だと言われますが、黒字のこともあります。そして、今年5月の固定資産税は数千万円増となります。

1所帯、戸建1軒が増えると、牛久は年間で約40万円の市税が入ってきます。市役所も商売の時代です。皆さんの生活を守るには、個人を増やし、企業を増やし、そして税収を確保し、その預かった貴重な税金を皆さんの生活がより利便性を持つように、また、商売であればそれが継続できてもうかるようにお手伝いしていきます。

今年の仕事を始めて、職員に「職員の仕事が今とどんな変わっていますか。以前の市役所の職員の仕事は制度を運用していればよかった、国が決めた法律だけ運用していればよかった。しかし、これからは市民のためになる仕事をしなさい」と言いました。また、今年はどうなにか景気が悪くなくても、職場が無くなると家庭崩壊するような家庭を減らすこと

と。そして、かわいい子どもを育てている家庭が、少なくとも他人の世話になることなく自立できるように家庭を支えること、それが市役所の新しい仕事だと言いました。

市民サービスを低下させないために、私は市長になってから職員は減らしていません。むしろ増やしています。人件費は42億円台で横ばいです。正職員数は減らしていますが、人件費は減らしていません。共済費や退職金、それ以外の費用が増えてしまつて人件費は減っていません。人件費が減り始めるのは平成24年以降です。これからやることはいっぱいあります。ただ、一円のお金も無駄にせず、大事にしながらやりたいと思います。

◇手を携えて夢のあるまちへ

牛久市は皆さんと手を携えながら前向きの仕事をしていきます。ぜひ、今後とも話し合いをしながら、この牛久が前向きで、そして苦しい時があつても、それを耐え抜けば、幸せな時が来ると、そういうような夢のあるまちにしていきたいと思っています。

皆さんからの信頼を裏切ることなく、上向きになるであろう年を迎えるためにも、この1年、その準備のために皆さんと一生懸命汗をかきたいと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。